

2026 年度 二大学における相互評価結果について

学 長 高橋 徳行
(内部質保証委員会委員長)

本学は、毎年の自己点検・評価の信頼性と妥当性を高め、内部質保証システムの一層の充実へつなげていくため、旧制高等学校をルーツに持つリベラルアーツ五学園(学習院大学、成蹊大学、成城大学、武蔵大学、甲南大学)の中で大学規模が近く同系列分野の学部を設置する成城大学との相互評価を 2016 年度より開始しました。さらに、2023 年度からは甲南大学が加わり、武蔵大学、成城大学、甲南大学の三大学における相互評価として実施しています。今年度は本学と成城大学との二大学における相互評価を実施しました。

具体的には、各大学が評価を希望する取組について、提出資料に基づく書面評価を行い、本学は、2027 年度以降の大学院のアセスメント・ポリシー素案について、成城大学より別紙のような評価を受けました。

内部質保証委員会では今回の評価結果を踏まえ、不十分と判断された点について担当部局とも調整しながら、引き続き改善に取り組む予定です。

本学では、今後も学園建学の「三理想」を踏まえ、「入口」(入学者選抜)から「出口」(学位授与)まで、3ポリシーに基づく一貫性のある大学教育を施し、自己点検・評価を重ね、絶えず改善に取り組んでまいります。

以 上

武蔵大学に対する相互評価結果

Ⅰ．総 評

武蔵大学は、大学院（研究科、専攻、コース）について、アセスメント・ポリシーを作成し、具体的な評価及び結果活用方法に関する検討も含めて、「学修成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確」にしようと努めていること、また、「学修成果を把握・評価する指標や方法（が）、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力の達成度を測定・評価するものとして適切か」を確認しようとしていることについて、適切な取り組みを行っているといえる。

ただし、アセスメント・ポリシーの記載内容や構成については、細部を調整することで、複数研究科間の整合性を高める余地があると考えられる。また、アセスメント・ポリシーと３つのポリシー等との相互の連関についてご検討いただき、評価結果を教育改善に活用するプロセスを明確に示すことが期待される。

Ⅱ．概 評

	内容	評価
1	学修成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。	対応済・要改善
2	学修成果を把握・評価する指標や方法は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力の達成度を測定・評価するものとして適切か。	対応済・要改善

以上